【参考資料】 平成21年度　実績報告（白川町森林組合）

作成日：平成22年4月30日

施業集約化	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	37ha	31ha	83.8%	H22予定：50ha	
いつ	4月～3月	6月～12月		通年対応を基本とするが、5月中旬～8月末を強化期間とする。	組合座談会期間の後に集中実施
誰が	集約化担当　澤田卓朗	集約化担当　澤田卓朗		集約化担当を1名拡充予定	前年度の検討を踏まえ実行
どういう方法で	個別訪問（10軒） 地区座談会（2回）	個別訪問（12軒） 地区座談会（2回）		集約化地域の研修会を積極的に開催して施業地の集約化を進める。	対象予定：2団地

下刈・除伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	1.00ha	0.12ha	12.0%	H22予定：1ha	
いつ	6月	8月		間伐作業との労務調整で効率化	
誰が	森林所有者	森林所有者		森林所有者に作業実施を促す	
どういう方法で	効果の高い時期に実施し	適期に実施し植栽木の成長を促進		集約化調整時に除伐必要箇所等再精査	森林所有者の思いと保育上の必要性を分けて考える。

間伐	計画	実績	達成率	今後の対応	備考
数量	利用：21ha	利用：10.00ha	47.6%	H22予定：33ha	H21は、作業員のケガにより切捨間伐へシフトした。
	切捨：2ha	切捨：21.00ha	1,050%	H22予定：4ha	
いつ	4月～3月	9月～3月		梅雨、降雪期間を含めて、出来る限り通年して素材生産	集約化の状況によって2班体制を本格的に検討し、通年で取扱量を増やす。
誰が	素材生産担当　藤井博文	素材生産担当　福田明洋		素材生産担当　藤井博文	
どういう方法で	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐	既設道を起点に作業道を開設し利用間伐		施業提案書を活用し、実施箇所をモデルとした施業地を広める	既設道路周辺に加え新規開設した作業路周辺で素材生産

作業道（路）開設	計画	実績	達成率	今後の対応	備考	
数量	W=3.0m,L=3,000m	W=3.0m,L=2,364m	78.8%	H22予定　W=3.0m,L=4,500m	開設費	W=3.0m　2,000円／m 森林管理路緊急整備事業
いつ	4～6月	6～9月		通年（梅雨、降雪時を除く）開設		
誰が	白川町森林組合	白川町森林組合		集約化担当、素材生産担当		担当者増員と合わせて検討
どういう方法で	設計・施工・管理：森林組合直営	設計・施工・管理：森林組合直営		H22以降に基盤となる規格の高い幹線作業路の追加を検討（高密化）		加速化基金事業活用

素材生産	新規チーム設立（H20）	内容		
新規構築作業システム（機械の組合せ、種類・規格・台数）		①伐倒：チェンソー　→　集材：ウィンチ付きグラップル(0,25)　→　造材：チェンソー　→　積込・運搬：フォワーダ(3.0t)　→　トラック(10t) ②伐倒：チェンソー　→　集材：ウィンチ付きグラップル(0,25)　→　造材・枝払い：(新規)ハーベスタ　→　積込・運搬：フォワーダ(3.0t)　→　トラック(10t)		
素材生産チーム数（チーム員数）	実施前　→　実施後 （H20）　（H21）	1チーム（4人/班）	→	1チーム（4人/班）
実稼働日数（日）		109		78
素材生産性（㎥／人・日）		2.94		3.82
素材生産費（円／㎥）	H21計画（実績）	車両系：9,600（10,000）円/m3		

年間素材生産量	計画	実績	達成率	備考	今後の対応
モデル団地内	1,500	1,001	66.7%	森プロ関係のみ （新規導入機械による素材生産） （リース機にてハーベスタを導入）	集約化を着実に進め利用間伐による素材生産を確実に実施する。 ハーベスタ（リース）を導入し、新規低コスト作業システムを構築する。
モデル団地外	0	189	–		
合計	1,500	1,190	79.3%		

上記のほか、プロジェクト推進のために講じる具体的取り組み			
計画	実績	達成度検証方法	今後の対応
森林施業プランナーの育成（1名）	・森林施業プランナー育成研修出席（1名） ・施業提案書の活用（5件）	森林施業プランナーの育成（人数） 森林施業プランナーによる施業提案書の活用（件数）	施業提案書の検証とブラッシュアップを図り、組合員に信頼される施業プランナーを目指す。
先進地視察（2回）	・現場作業班の知識を補うため研修会等でアドバイスをもらい実践(3回) （森林文化アカデミー・技術支援センター） ・三重県内(株)森林再生システムが管理するトヨタ社有林等を視察し、路網整備に関する知識を習得（1回）	先進地視察数（回数）	・集約化施業に関する視察等研修会に積極的に参加し、課題の明確化と共有化を図るとともに、課題克服に関する履歴を残す方法を検討する。
モデル団地外での普及・啓発	・集約化現地説明会を開催（4回） ・アンケート未実施 ・当初間伐予定のない箇所で189m3の素材生産量を確保	集落座談会、現地説明会の出席者に対するアンケート実施数（枚数）	・H21検討した集約化実施計画の実行に向けて、集約化に特化した説明会を開催する。 ・モデル林及び進行中の現場を見学してもらい、集約化・路網整備のメリットを実感してもらう。
	・白川町内で11箇所(500ha)の集約化実施計画書を作成 ・長期施業受託契約の締結（32件）	森プロモデル林の設置数（箇所数） 長期施業受託契約数（件数）	
素材販売流通システムの確立及び安定供給（森プロ取扱量の50%達成目標）	県森連のネットワークシステムによる素材の試験出荷・販売を実施　1,190m3のうち348m3(29%)出荷	素材販売流通システムでの流通実績（森プロ取扱量の割合）	県内・地元製材業者への直送販売、県森連のネットワーク販売など、有利な販売先の確保と流通コスト削減に向けた、地域での取り組みを推進する。